

# ほし み 星を見よう!

2020年1月号

No.253

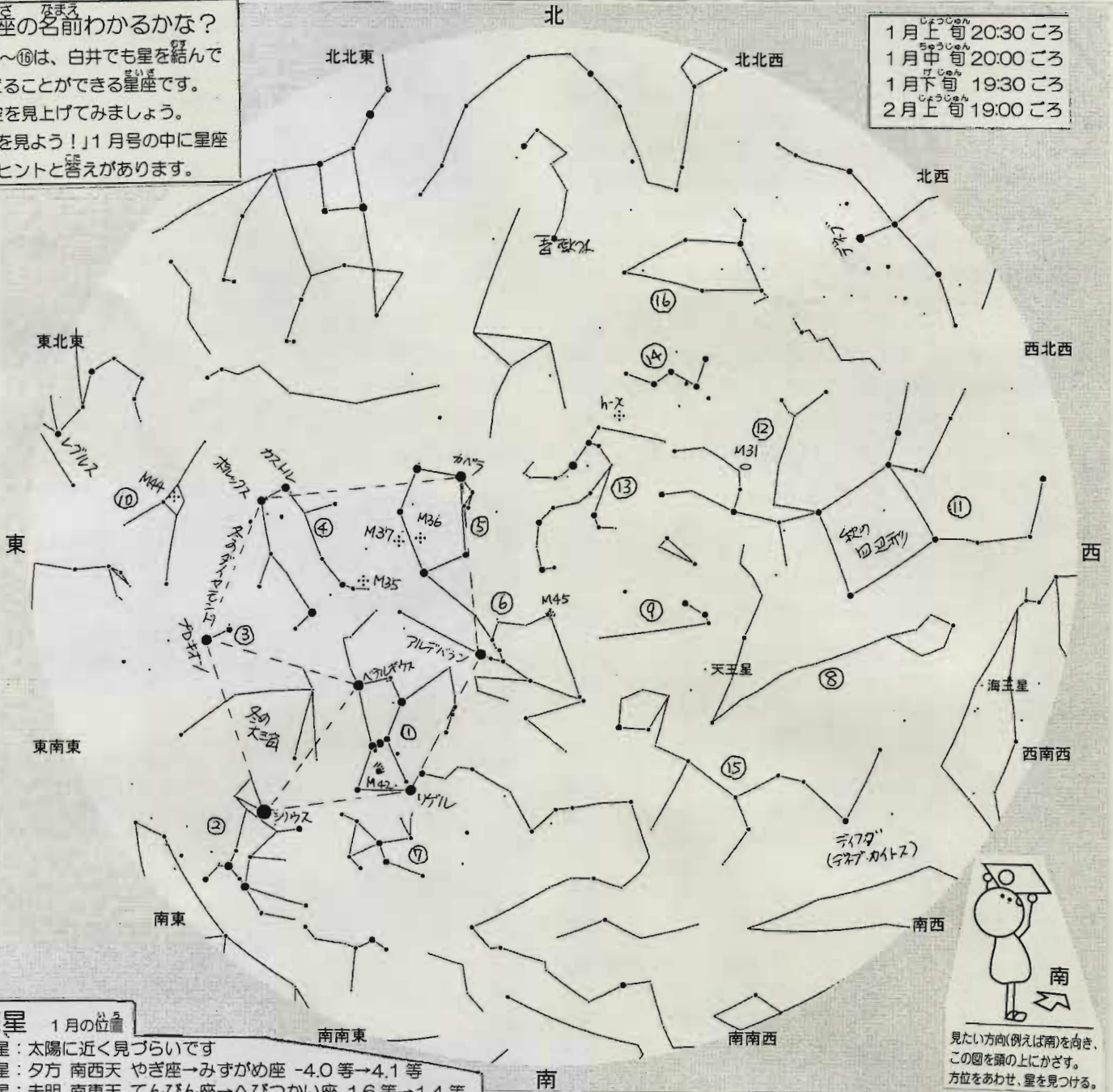
2020年1月7日発行

しろいしぶんか  
白井市文化センター・プラネタリウム  
〒270-1422 白井市復1148-8  
TEL047-492-1125 Fax047-492-8016  
e-mail: planet@center.shiroi.chiba.jp  
URL: http://www.center.shiroi.chiba.jp/planet/

星座の名前わかるかな?

①~⑯は、白井でも星を結んでたどることができる星座です。夜空を見上げてみましょう。「星を見よう!」1月号の中に星座名のヒントと答えがあります。

1月上旬 20:30ごろ  
1月中旬 20:00ごろ  
1月下旬 19:30ごろ  
2月上旬 19:00ごろ



## 惑星 1月の位置

- 水星：太陽に近く見づらいです
- 金星：夕方 南西天 やぎ座→みずがめ座 -4.0等→-4.1等
- 火星：未明 南東天 てんびん座→へびつかい座 1.6等→1.4等
- 木星：下旬～夜明け前 南東天 低いいて座 -1.8等→-1.9等
- 土星：太陽に近く見づらいです



見たい方向(例えば南)を向き、この図を頭の上にかざす。方位をあわせ、星を見つける。

☆ロイヤルアワー 日曜・祝日\*11:30 わかるかな? 宇宙クイズ

☆一般向け接映 土・日 13:30 15:00 ゆく星くる星~宇宙天文カレンダー2020

土日祝\*13:30 そらのうた 15:00 星座ミュージアム「ぎよしゃ座」

☆星間の星を見る会 1月18日(土)/2月8日(土)11:30~13:30 予約不要・無料

太陽表面などを観望。ご都合のよろしい時間にお越しください。雨天曇天中止

☆星を見る会 予約不要 対象:小学生以上(小学生は保護者同伴)

1月18日(土)/2月8日(土)17:30 (約75分) 受付:17:10~17:30 図書館棟玄関前

実際の空で星座探し+望遠鏡で、天王星、海王星、アンドロメダ銀河、すばる、

h-x、オリオン大星雲 他を観望 観望前にはドーム内で星空解説があります

雨天曇天の場合はドーム内で約45分間の星空解説のみ 大人200円 高校生以下 無料

☆プラネタリウムの休館日 毎週月曜日と年末年始 ※月曜日と重なる祝日は休館

## ぶぶんにつしょく 部分日食 12月26日(木)

関東の一部で雲のまにまにか欠けた太陽が見られました。



写真 船本成克

2020年の天文現象 別紙「天文カレンダー」参照

2020年の目玉は、6月の部分日食、2年2ヶ月ぶりの火星の準大接近(最近は10月6日)、そして、金星や火星、木星、土星などの惑星の会合でしょう。肉眼で見ることのできる天文現象ですので、チャンスを逃さず観望しましょう。

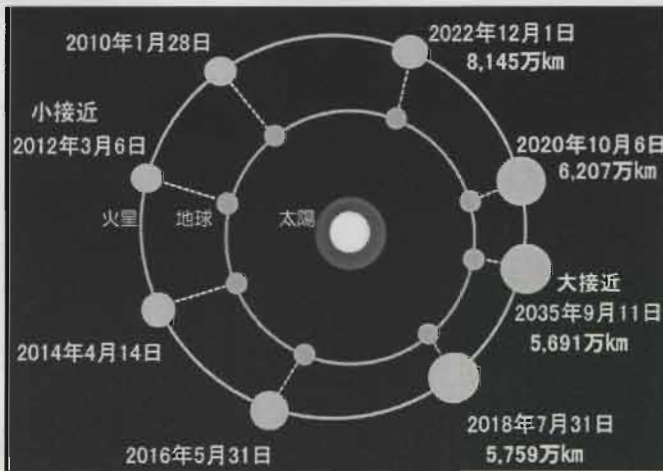
**部分日食** 6月21日(日)夏至 太陽表面積の約35%が欠ける

2019年12月の部分日食は曇天のため白井付近は観望できずでしたので、1年半ぶりの日食です。白井付近で、日食が次に見られるのは、なんと10年後の2030年6月1日の部分日食。梅雨の最中ですが、晴れを祈願!

**火星準大接近** 10月6日(火)

1月は夜明け前の東の空で赤く輝いています。さそり座のアンタレス付近を通過していくので、どちらが赤いか、日の出の遅いこの時期、早起きをして確かめてみましょう。

火星が「宵」の空で目立つようになるのは秋ですが、夏以降深夜の東の空で輝きを増します。2年2か月ごとに地球と火星は接近します(下図参照)。地球の公転周期は365日、火星の公転周期は687日。火星の軌道が地球より楕円なため、接近時に近い時と遠い時があり、15~17年ごとに大接近が繰り返されます。次回の大接近は2035年です。



**惑星の会合**

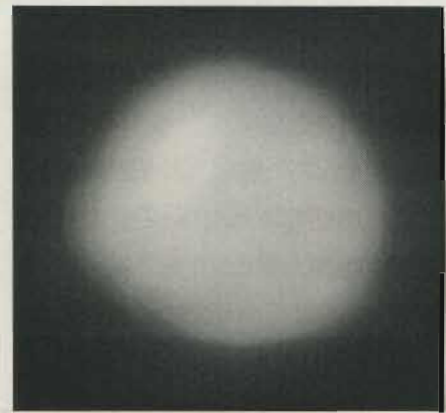
今年、惑星が集合してみえる現象が頻繁に起こります。3月は明け方東の空で、木星と土星、火星が集合。3月18日~19日には月も接近します。圧巻は12月21日~22日、夕方から宵の空で見ることのできる木星と土星の超接近!

**はやぶさ2**

順調に地球に向けて飛行中。12月帰還予定。

**ベテルギウスが暗い...**

オリオン座の赤い星ベテルギウスは、太陽の位置にベテルギウスがあったとすると木星軌道と同じぐらいの大きさになる赤色超巨星です。不規則型脈動変光星で、かつて極大時には0.2等、極小時には1.2等以下になったこともある星です。そのベテルギウスが昨年2019年の10月あたりから、暗くなってきています。ベテルギウスは、星の一生の終末期を迎えている星で、間もなく、超新星爆発を起こすと考えられています。(「間もなく」は天文学的時間感覚です)



アルマ望遠鏡が撮影したベテルギウス。ベテルギウス大気の下層部分で局所的に高温になっている部分をとらえているため、左右が非対称になっているとのこと。

**今月の見どころの重星連星天体**

アルマク(アンドロメダ座γ星) 黄色の2.2等星と青色の5.0等星の二重星。連星系。  
リゲル(オリオン座β星) 0.1等青白い星と7等の連星  
カストル(ふたご座α星) 多重連星系(六重連星系) 1.9等のカストルAと2.8等のカストルB。また、それぞれがふたつの星からなる連星。さらにふたつの連星をまわるカストルCも連星。

しろいメール配信サービスに登録しましょう

- ◎文化センターイベント情報
  - ◎コンサート情報
  - ◎イベント講座情報
- イベントの前にメールが届きます。

